

野川台自治会

あいさつ運動の輪

発行：野川台自治会
 発行者：野川台自治会長
 川崎市宮前区
 TEL.
 協力：西野川小・野川中PTA、おやじの会
 一葉会、すずの会、青少年指導員ほか
 編集：福祉の風土づくりを進める会事務局



家庭・学校・地域のさらなる連携をめざして



あいさつ運動を始めてから 8 年目、子どもたちの思いに応じて「あいさつの輪」、さりげない「お節介の輪」の拡がりを通じて、信頼と支え合う“絆”づくりを皆さんの手で！

身体であいさつできる

西野川小学校 校長 高橋 順一

「校長先生おはようございます」という挨拶をする子どもが増えました。150点の挨拶ですよ、と朝会で話し続けた成果でしょう。

今では立ち止って、お辞儀をしながら、笑顔で挨拶する子も増えました。300点の挨拶ができるようになりました。

1月7日、校門に立っていると、数名の児童が「校長先生、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。」と立ち止って挨拶したのです。一瞬驚きました。誰に教わった訳でもなく、自分で考えて勇気を出して挨拶したのでしょうか。参りました。もはや1000点の挨拶ですね。

3年前、校門で挨拶するのは苦痛でした。仕方なく挨拶するか無視するかの子どもたちが多かったからです。今は心の通い合う一番楽しく優しい時間です。頭で考えて挨拶するのではなく、身体が反応する本物の挨拶になりました。地域の皆さん方の支えに、心から感謝します。西野川小学校はいい学校です。



という声が物語っています。さらには、「地域といっしょに」なって行ったことが、教員からの評価ではなく、第三者からの評価をいただく機会となっていることも意味のあることだと考えています。今後も、地域から応援してもらおうという一方通行の関係ではなく、「地域といっしょに」をテーマにあいさつ運動も含め、地域連帯を深めていきたいと考えています。



どんど焼 (1月11日西野川小学校おやじの会)

あいさつはコミュニケーションの第一歩

宮前区役所こども支援室 室長 青山 正彦

第一印象がとても大切という話は、よく聞かれますが、その中には「挨拶」も含まれています。「挨拶」は基本的な礼儀、そしてコミュニケーションの第一歩と言われています。「挨拶」は相手に対する気づかいでもあり、そして「あなたの存在を大切に思ってますよ」という意思の表れでもあります。相手に安心感を与えたり、緊張感をほぐしたりという大きな役割があります。人間関係も円滑してくれます。とあるアンケートに、「嫌いな人間から笑顔であいさつされたら？」という興味深い質問がありました。その結果は、一部の人は、「何か裏があるのではないか？」と思ったようですが、過半数以上の多くの人が、「悪い気はしない。その人に対してイメージが良くなった」と好意的に答えていました。あいさつ運動の輪が、人と人との大事な潤滑油として、これからも、家庭・学校・地域で大きく拡がることを、心より願っております。

地域といっしょに

野川中学校 校長 北谷 辰雄

日頃より、地域の子ども達に声かけや時には、指導をいただきましてありがとうございます。本校では、生徒会を中心に地域へ出向いて募金活動・地域清掃・地域盆踊り・吹奏楽部の地域行事参加など、ボランティア活動を積極的に取り入れています。

そのボランティア活動は、終わったあとの達成感や充実感、そして地域の方から評価して頂くことにより自尊心も育っているのではないかと感じています。

それは、生徒のやってよかった、参加してよかった

着実に子どもたちに広がるあいさつの輪

— 信頼し、支え合う風土づくりへの道 —

こどもたちとあいさつ

西野川小学校の児童からの「地域の人とあいさつがしたい」という声に応じて、学校と地域と一緒に朝のあいさつ運動を始めて8年目、子どもたちは、あいさつ運動をどんな風に思っているのか、西野川小学校のご理解とご協力を頂きアンケート調査を実施しました。

大きな声は、“自分も相手も気持ちいい”

問1で、「前より大きな声ができるようになった」と答えた子どもに、その理由を自由に書いてもらったところ、“自分も相手も気持ちがいいから”を挙げ、実際に体全体であいさつを表現しています。

子どもも“ちょっとした心づかい”

問2で、「道で会った近所の人にあいさつが前よりできるようになった」という子は“学校であいさつ運動をしているから”を挙げ、また、こども運営委員会では、通りすがりに、あいさつをしても返してもらえない時は、“こちらから少し大きい声で、元気にあいさつすれば大丈夫!”というちょっとした心遣いの大切さが話し合われているとのこと。

近所の人にも声をかけてくれてうれしい!

問3と問4の答えだけでは、一概に言い切れませんが、自由意見からみますと、子どもの方もあいさつするし、近所の人にも声をかけるという良い間柄に少しずつなっていることが伺えます。

絆づくりを通じてコミュニティ形成を!

あいさつは全ての原点。即効薬ではないですが、子どもの健やかな成長や地域の教育力の回復はもとより、自治会の防犯・防災、交通、環境美化、信頼し支え合う福祉の風土づくりにもつながっています。

これからも「あいさつの輪」、さりげない「お節介の輪」の拡がりにみなさんと一緒に進めませんか。



西野川小学校の朝のあいさつ運動

野川台自治会と学校の主な取り組み	主な担い手
1 朝の校門でのあいさつ運動	学校(地域)
2 パトロールを通じたあいさつ兼防犯活動	地域
3 標語シール「あいさつは笑顔あふれるひみつの言葉」	学校・地域
4 広報紙「あいさつ運動の輪」発行	地域・学校

公園の安全でうるおいのある生活空間づくり

野川台には、大小6つの公園があります。それぞれの立地と広さによって使われ方も特色があります。例えば、第二公園は、乳母車を引いた若いお母さん方の交流の場、第三公園は、高齢者の健康体操の場、第四公園は、どちらかと言うと多目的で、子ども達の遊びの場、夏のラジオ体操の場、お神輿の休憩の場であったり・・・。そうした子どもからお年寄りまでのライフステージに合った空間利用を支えているのが、皆さんと各公園協議会と自治会です。

今年度も、年3回美化清掃活動を行い、延べ472名の多くの方の参加を得、70L入りのゴミ袋478袋にもなりました。最近、犬の放し飼いやフンは少なくなりましたが、まだカップラーメンなどのゴミの散らかしや粗大ごみの放置が見られます。

“ゴミがゴミを呼ぶ”という悪循環や犯罪の温床にならにように皆さんと一緒にパトロールを含め、引き続きゴミを捨てにくい雰囲気づくりと樹木の剪定、花壇づくり等美化に努めていきたいと思ひます(事務局)。



心にうるおいを!



親子一緒に落ち葉集め!

問1 あなたは、あいさつする時、前より大きな声が出るようになりましたか		
前より大きな声が出るようになった 44%	前よりときどき大きな声が出るようになった 45%	あまり大きな声でない 9%
問2 あなたは、道で会った近所の人にあいさつが、前よりできるようになりましたか		
できるようになった 49%	少しできるようになった 40%	なかなかできない 9%
問3 近所の方は、あなたに会った時、よく声をかけて下さいますか		
よく声をかけてくれる 46%	ときどき声をかけてくれる 38%	あまりかけてくれない 13%

注:各問の比率の合計は、「その他・不明」の比率が未記載なので100%になりません



あいさつは笑顔あふれるひみつの言葉

— えがおひろがり ポッカポカ —



あいさつで えがおひろがり ポッカポカ!

西野川小学校 1 年生

あいさつうんどうのとき、せいもんで、げん気いっぱい大きなこえでやりました。学校のみんなからあいさつをもらったので、ほくのこころは、あたたくなってきました。だから、こんどは、じぶんからいろいろな人にあいさつをしていきたいです。(ひらいわ かいとさん)

ほくは、あいさつをすると、じぶんもすごくうれしいです。けさ、きょうとう先生にあいさつをしたら、きょうとう先生のかおは、すごくうれしそうでした。ほくは、そのかおであいさつがすきになりました。だから、ほくはあいさつをつづけたいです。(たかぎ たくみさん)

わたしがあいさつをするときに、一つだけ気をつけていることがあります。それは、えがおです。えがおがなければ、えがおがなくなってしまいます。だから、わたしは、これからも、えがおで「おはようございます。」とあいさつをしていきたいです。(いとう もねさん)



中学校のあいさつ運動

東日本大震災復興支援プロジェクト立ち上げ

AKB48「恋するフォーチュンクッキー」に乗せて!

一昨年の夏のことです。野川中学校のひとりの生徒が、友達の家と一緒に東北に行った際、東日本大震災の復興の様子を目の当たりに見て衝撃を受けました。

自分たちも小さいことでも、お役に立てることがなにかないものか思いめぐらせながら帰路に!。その思いを32期生徒会本部が音頭をとり、学校全体で復興支援プロジェクトを立ち上げたのが取組みの始まりです。

芸術祭などでの色々な経過を経て、昨年33期生徒会本部も引き続き先頭に立って、被災地の方に少しでも前向きに頑張ってもらいたいという思いと、遠く離れた川崎に住む私たちも震災のことを考えていることを伝えるため、各クラスからの声を編集した「メッセージアルバム」に併せて、全校生徒がAKB48「恋するフォーチュンクッキー」の歌に乗せ、心を一つにして踊った「ミュージックビデオ」づくりに挑戦。1週間という短い練習時間でしたが、有志だけでなく全校生徒が朝学活と昼休みなどを利用して見事完成させました。

今年に入り、このふたつを被災地出身の当校の先生に託し、陸前高田市立第一中学校に直接お渡ししました。ひとりの生徒の思いを全校生徒一人ひとりの思いとした“感性と若い行動力”は多くの人に感動を与えています。

プロジェクト企画・運営

野川中学校第32、33期生徒会本部
「社会を明るくする会」宮前地区推進委員会からの表彰 (H26. 2.20)



全校生徒、AKB48「恋するフォーチュンクッキー」に乗せて!

みんなに明るさを届けるひとつの手立て

野川中学校生徒会 2年 千葉 雄大

「おはようございます」朝、学校に入ると明るい声であいさつが聞こえてきます。野川中学校のあいさつ運動は、全校生徒が行っている活動のひとつです。私自身、この学校に入学したとき、通路で、「こんにちは」とあいさつをされました。この時、なんともいえない優しい気持ちに心が伝わってきました。野川中学校での「伝統」ともいえるあいさつは、他にも人を明るくします。生活委員会を主催に行っている朝のあいさつ運動は、最も通学してくる人の多い時間に、校門であいさつを行っています。明るいあいさつが、良い一日を届けていて、自分自身もとても元気になります。このように、あいさつ運動は、明るさを届けるひとつの手立てなのです。



小・中・地域・警察・区役所との合同パトロール

学校と地域のつながり



学校・地域のイベントや児童・生徒の活躍は地域の誇り

(文責は編集事務局)

1年生、むかし遊びに挑戦!

コマを廻せて“やった”と跳び上がって喜ぶ子、指先に目を近づけ、あやとりの四段はしごに挑戦している子、名人に寄り添って、あきらめないで何回も黙々と頑張っている子・・・。



コマにひもをまけるかな!

この光景は、11月6日、西野川小学校体育館で行われた地域の昔遊びの名人と一年生との触れ合いの授業の一場面です。

61名の子どもたちは、思い思いに、こま、めんこ、おはじき、お手玉、はねつき、あやとり、ぶんぶんこま、たけとんぼ、かるた等10種類に挑戦。

後日の子どもの感想文で「自分の家では、あまりあそべないので、すごかったのしかった」、「メンコをひっくりかえすのがむずかしかった、またやりたいです」などの声が聞かれました。地域の人にも元気をもらった1日でした。(担当は、草開先生、若月先生)

着実に順位を上げている陸上部!

野川中学の陸上部は、50名を超す大所帯です。陸上の成績は、努力がそのまま記録として残ります。



明日を担う選手!

昨年の市大会では、女子総合2位、男女総

合6位の好成績で、年々着実に順位を上げてきています。なかでも100mハードルの女子と1500m長距離の男女、併せて3名の選手が群馬県で開催された関東ブロック合同合宿の強化選手として参加し、さらにレベルの高い練習を積んできました。日頃の部活をみると、顧問の先生の練習メニューに沿い、各自の目標を持ちお互いに励まし合いながら、練習日には誰一人として、一日も休まず自主トレーニングをしていることです。この地道さが記録更新につながっていると言えます。ちなみに長距離の選手は、日に10km近くも走り込んでいるとのこと。(顧問は、平川先生、大石先生)

“ふたつの地域清掃活動の実践”

11月16日(土)、地域教育会議の音頭の基に、二つの清掃活動が、野川地域の四つの小中学校の児童・生徒と地域の7つの自治会・町内会、併せて200名の人と一緒に進められました。



ひとつは、梶ヶ谷にある高さ5m、全長190mのトンネル(架道橋)内の水族館に見立てたトンネルアートの清掃。当日、まず地域の人が高圧洗浄を行い、その後三つの小学校の児童と野川中学の生徒30人が、一時間半をかけて母校の先輩が6年前に描いた壁画をブラシできれいにし、中には“海の生きものが生き返った、すごい!”と感涙している生徒の姿も見られました。

もうひとつは、一昨年残念ながら、雨で中止になった野川地域での初めての街の“地域清掃”です。野川中の生徒会本部と福祉厚生委員会が中心となって、当日4つのコースに分かれ、街路等のゴミ拾い作戦を展開。「街が綺麗になってよかったね、有難う!」と近隣の方の声で、心が温かくなったことが伺えました。

職場体験で何かをつかんだ!

今日は、富士見プラザ デイサービスセンターでの職場体験の二日目。午前中は、入浴後の髪の毛をドライヤーで乾かす、昼は配膳、午後はレク



ゲートボールのお手本!

レーションのゲートボールの時間。ゲームの始めに野川中の沼田さんがお手本を示しゲーム開始。Aさん“500点”のヘルパーさんの声に、参加している30名近い仲間が手をたたき姿に照れくさそうにするお寄り。その間、沼田さんは、お年寄りの日線をもって笑顔でボール拾いに専念していました。

責任者の才川さんから、初日は緊張している様子でしたが、二日目は肩の力が抜けた感じで、お年寄りと接することでなにかを掴んでくれたと思います。受け入れた生徒の日々成長する姿は頼もしいですね。将来の進路選び等の糧になれば喜びですとの温かいお話がありました。(担当は、鈴木先生)

編集後記

アンケート調査について、西野川小学校の高橋校長先生の特段の御配慮をたまわり有難う御座います。先生のおっしゃる通りに子どもたちの体全体であいさつ姿に本物を感じます。また今年度、宮前区まちづくり協議会から支援を賜りました。有難う御座います。(日高、原、山本、辻本、後藤、岩本)